

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ブロッサムジュニア加古川尾上教室（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2025年 12月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数) 21名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		～ 2026年 1月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職による専門的な支援を実施している。	作業療法士による「発達アセスメント」や言語聴覚士による「構音スクリーニング」など、専門職ならではのツールを活用し、利用者の特性に応じたきめ細かい支援を行っている。	公認心理士等の専門職を新たに配置することで、利用者に対し、あらゆる面からきめ細かい支援が可能となるので、早期に人材確保を行い配置する。
2	療育経験が豊富な職員を配置している。	専門職を含め、療育経験豊富（児童福祉業界5年以上勤務）の職員が多く、療育プログラムを提供するにあたり、経験値や引き出しが多い。	今後も新たな人材を採用する際は、児童福祉業界における実務経験年数を考慮し、募集・採用活動を進めていく。
3	室内での活動スペースが広く、様々なプログラムを取り入れることができる。	集団療育室、小集団療育室、個別療育室（2部屋）を設けており、十分な広さがあります。また、療育内容によって部屋を使い分け、内容に応じて活動できるスペースを確保している。	利用者の特性や療育内容に応じて部屋を使い分け、活動しやすい環境作りを行う。また、広いスペースを生かして、運動療育や感覚統合のプログラムを積極的に取り入れていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会が少ない。	立地やサービス提供時間の関係上、調整が難しい部分があり、現状、加古川尾上教室において地域交流の取り組みが少ない。	現状、地域から少し離れたエリアにはなるが、活動の場を少しずつ広げ地域交流を行っている。立地やサービス提供時間の関係上、調整が難しい部分もあるが、今後も可能な限り、地域交流の機会を持てるように努めていく。
2	入職から日が浅い職員（2025年10月の定員拡大後に入職した職員）が多く、保護者や関係期間との関係構築ができていない。	入職から日が浅い職員（2025年10月の定員拡大後に入職した職員）は、保護者との個別面談や担当者会議にまだ出席できていないため、保護者や関係期間との関係構築が出来ていない。	全職員が保護者や関係機関の担当者と早い段階で面識が持てるように、個別相談会・担当者会議への参加促進や情報発信の工夫を行っていく。
3	入職から日が浅い職員（2025年10月の定員拡大後に入職した職員）が多く、療育プログラムの内容に偏りが生じている。	入職から日が浅い職員（2025年10月の定員拡大後に入職した職員）の中には、経験の浅い職員もおり、療育プログラムの意図や狙いを深く理解出来ていない。	既存のメンバーである専門職員や経験値の高い職員を指導係として具体的な助言や事例の共有を行い、それぞれの得意分野や強みを活かした療育プログラムを検討していく。